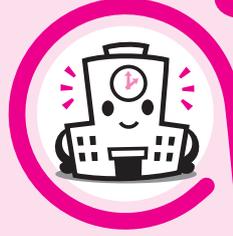


つながる



学校と家庭の学び

「ファミリー読書」活動で

家庭で本を読む機会を広げる

岩手県滝沢村立滝沢東小学校

滝沢村立滝沢東小学校では、自ら進んで本を読む子どもを育てようと、さまざまな活動を行っている。国語の授業で各単元に関連する本を推奨したり、家庭と連携した読書活動を続けたりした結果、子どもの読書量が増え、文章表現力も向上しているという。

子どもが多くの本を読むよう 授業づくりを工夫

滝沢村立滝沢東小学校には、大人しく素直な子どもが多く、校内の雰囲気は落ち着いている。ただ、自分の気持ちを相手に分かりやすく伝えられないなど、言葉によるコミュニケーションには課題があった。そこで、2005年度から子どもが本に親しめるようになるための活動に力を入れていく。加藤孔子校長は、このねらいを次のように話す。

「本を読むと人生や社会に対する

多様な考え方に触れられますし、言葉遣いも学べます。子どもの感性が豊かになるだけでなく、感じたことを表現する力も伸ばせると考えました」

子どもがより多くの本を手にとれるよう、まず授業に工夫を凝らした。国語の授業では、教師が各単元に関連する本60〜100冊を公立図書館から借り、子どもに読むように薦める。公立図書館から何を借りるかは、11年度まで研究主任として読書活動を主導し、12年度は学校図書館支援員を務める矢羽々宜子先生と各担任

が話し合って決める。また、単元末には、子どもが自分の読んだ本について感想や紹介文を書いたり、友だちと話し合ったりするなど、自分の意見を表現する時間を設けている。

社会や理科の授業では、図書室での調べ学習を増やすなど、国語以外の教科でも子どもが本に触れる機会を積極的につくっている。

更に11月の読書週間には、普段は計算や漢字の書き取りに充てている、5時間目の前の10分間を「昼読書」の時間としている。子どもに範を示すために、担任も一緒に本を読む。

家庭との連携によって 子どもの読書への興味を深める

保護者と連携して、読書に対する子どもの興味を引き出そうとしていることも、同校の特徴だ。家庭とつながることのねらいを、菊池隆文副校長は次のように話す。

「子どもが読書習慣を身に付けるためには、家庭での働き掛けも必要です。保護者と本の話をしたり、保護者が本を読む姿を見たりすれば、子どもは読書に関心を持つでしょう。保護者の読書体験に触れることで、

読む本のジャンルが広がったり、難しそうな内容の本に挑戦したりするきっかけにもなると考えました」
家庭と連携した読書活動には、2つの柱がある。

1つめは、「親子読書の説明会」だ。毎年6月、教師が1年生の保護者に家庭で本を読むことの大切さを説明する。説明後、保護者は自分の子どもと一緒に図書室に行き、実際に本を読み聞かせる。矢羽々先生は、説明会では保護者にどのように子どもの読書にかかわってほしいかを具体的に示していると話す。

「ただ『本を読んであげてください』とお願ひするだけでは、『どうしたらよいか分からない』という保護者がいるはずです。そこで、読み聞かせの仕方や読書を促す声掛けの工夫などを細かく伝えていきます」

2つめの柱は、「ファミリー読書」だ。これは、本について家庭で話し合ってもらおうという取り組みで、夏休みと冬休みに全学年で行う。学校が配布した「ファミリー読書カード」に、子どもは目標の冊数と1日の読書時間、読んだ本の題名と感想などを、保護者は子どもの読書の様子とそれについての感想を書く。

保護者が効果的に子どもに読書を促せるよう、休み中の声掛けのポイントやタイミングなどをまとめたプリントも配布している。
矢羽々先生は、この取り組みのねらいを次のように話す。

「読書課題がある長期休暇中は、普段よりも家庭で本の話をしやすくと考えました。もちろん、課題図書以外の本を読んでも構いません。子どもには、興味がある本を読み、感想を書くよう伝えていきます」

11年度は、読書週間がある11月にも1か月間の「ファミリー読書」を行った。

「長期休暇中以外にも、家庭で読書をする時間をつくってほしいと思いました。課題図書を設けないため、

子どもは自分が読みたい本を自由に見付けようとするだろうとも考えました」(菊池副校長)

ここでは、子どもの読書意欲を高められるよう、保護者とのかわり増やす工夫をした。家庭ではまず、読書の目標、本を読む曜日と時間などを話し合ってから決め、「ファミリー読書計画表」(P.30図1)に記入。

そして終了時には、子どもと保護者それぞれが、自分の読んだ本の題名と互いへのメッセージを、保護者は取り組みの感想を「ファミリー読書のまとめ」(P.30図2)に書いた。

実施に当たっては、保護者が負担に感じないようにすることを心掛けた。保護者による読み聞かせだけでなく、子どもが保護者に読み聞かせ

をしたり、保護者と子どもが同じ場所ですべての本を読んだりするなど、どのようなスタイルであれ、家庭と一緒に本を読んでほしいと、学校だよりや学級だよりなどで呼び掛けた。

進んで本を読む子どもの姿が保護者の意識を変える

一連の取り組みを始めて5年ほどで、子どもの様子に変化が表れ、休み時間や放課後に図書室で本を読んだり、借りたりする子どもが増えた。「授業で習った昆虫の変態について、もっと知りたい」などと、目的を持って本を読む子どもも多くなったという。2学年担任で研究主任の菊池尚子先生は、子どもはよく本を読むようになったと話す。

岩手県滝沢村立滝沢東小学校

◎1996(平成8)年開校。岩手県の中央部に位置する。開校以来、子どもの表現力を育む活動が続ける。子どもがより多く本を読むようになるために、図書室で本を借りるように促す校内放送をしたり、子どもの実態に応じて図書室の十進分類法をアレンジしたりするなど、さまざまな取り組みを行っている。

校長 加藤孔子先生
児童数 317人
学級数 11学級
所在地 〒020-0173

岩手県岩手郡滝沢村滝沢字狼久保795-1
TEL 019-688-6602
URL <http://www.mac.ne.jp/~te1347/>



滝沢村立滝沢東小学校校長

加藤孔子

かとう・こうこ

「どの子どもも心を豊かにできるように、読書活動を続けていきたい」



滝沢村立滝沢東小学校副校長

菊池隆文

きくち・たかふみ

「自分の行動によって子どもに範を示せるような教師でありたい」



滝沢村立滝沢東小学校

菊池尚子

きくち・ひさこ

2学年担任、研究主任。「元氣と夢と自信を持った子どもを育てたい」



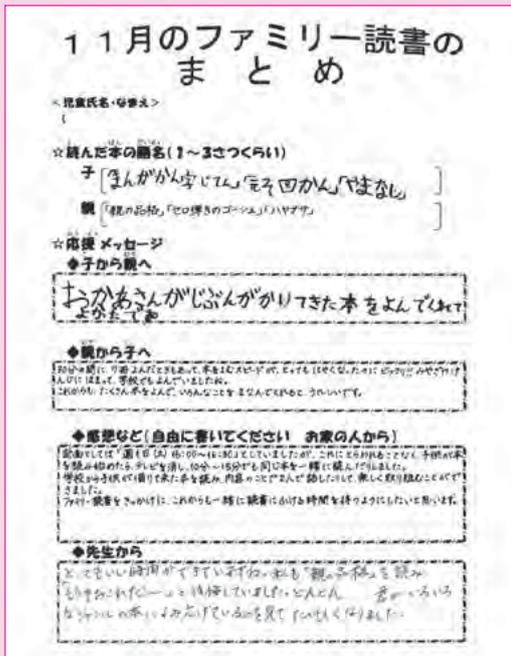
滝沢村立滝沢東小学校

矢羽々宜子

やはば・よしこ

学校図書館支援員。「子ども一人ひとりをしっかり見取り、それぞれの長所を伸ばしたい」

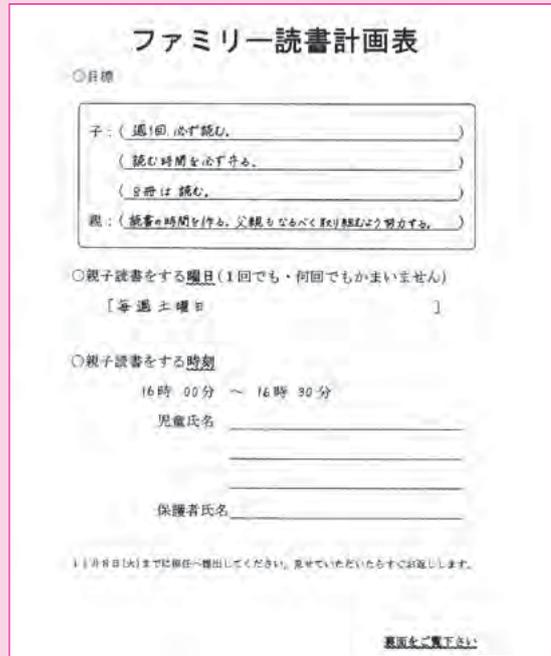
図2



「ファミリー読書」を肯定的に捉え、今後も読書活動を継続できるよう、子どもと保護者が互いに向けたコメントを書く「応援メッセージ」を設けた。子どもは、親のかかわりを感じ感謝する内容、保護者は、子どもの頑張りを褒める内容が目立つ

*同校の資料をそのまま掲載

図1



子どもと保護者それぞれが、「1日30分、本を読む」「週1日は親子で読書をする」など、読書の時間や回数などに関する目標を書き、ファミリー読書の日時を話し合って決める。裏面には、「兄弟姉妹がいる場合、ファミリー読書の曜日と時刻はそろえたほうがよい」など、工夫のポイントを載せている

裏面をご覧ください

◎「ファミリー読書カード」(夏休み・冬休み用)、「ファミリー読書のまとめ」、「ファミリー読書計画表」は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロード出来ます <http://benesse.jp/berd/> →情報誌ライブラリ(小学校向け)

「国語の授業の関連図書は、1冊元で1人5〜10冊ほど読んでいます。本に使われた言葉遣いを覚えて作文に使うなど、文章表現に関心を持ち、相手に分かりやすく伝える工夫をする子どもも増えていると感じます」

読書活動に対する保護者の理解も深まっている。以前は「ファミリー読書カード」にコメントを書かない保護者が見られたが、今ではどの保護者もたくさんコメントを書くようになった。

「どの保護者も、読書活動に積極的に取り組んでくれていると感じます。自分がかかわることによって子どもが読書をするようになったと、実感したからこそその変化だと思えます。『子どもと本の話をするのが楽しい』という保護者の声もよく聞かれるようになりました」(菊地先生)

加藤校長は、今後について次のように話す。

「現在、活動の中心となっている先生方が異動しても活動を続けるためには、チームとして活動に取り組む必要があります。また、校長としてミドルリーダーの先生を育て、組織として動ける学校をつくっていきたいと考えています」

学ぶ意欲を育み、学習法をサポートする 6年生向けの副教材を無料でご提供します

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2011年度は、のべ約15,000校から約110万冊ものお申し込みをいただきました。

2012年度は、6年生の児童向けに、キャリア教育の授業で自分の将来について考え、中学以降につながる「学ぶ意欲」と「自分でできる自信」を育むサポートをします。ぜひ貴校の教育活動にお役立てください。ただ今、事前予約を受付中です。詳しくはホームページまたは本誌同送のチラシをご覧ください。

学校&家庭 学び応援プロジェクトホームページ <http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>

未来に進むちからを育むプロジェクト。
ベネッセの学び応援

事前予約締め切り

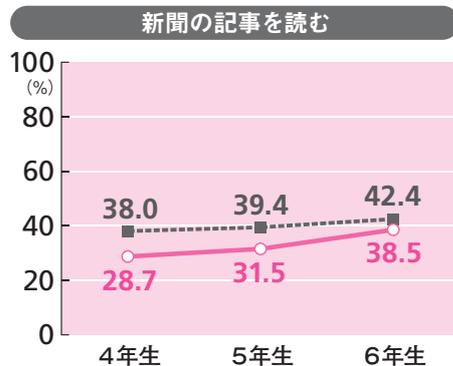
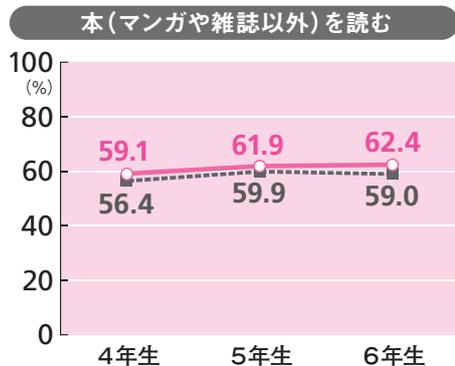
2012年
8/31(金)



小学生の本を読む頻度は上がっている

本や新聞を読む頻度(回答:小学4年生、小学5年生、小学6年生)

--- 2004年
— 2009年



2009年を2004年と比較すると、「新聞の記事を読む」頻度はどの学年段階も4~9ポイント程度、下がっている。しかし、「本(マンガや雑誌以外)を読む」頻度は、2~3ポイント程度であるが、どの学年段階も上がっている

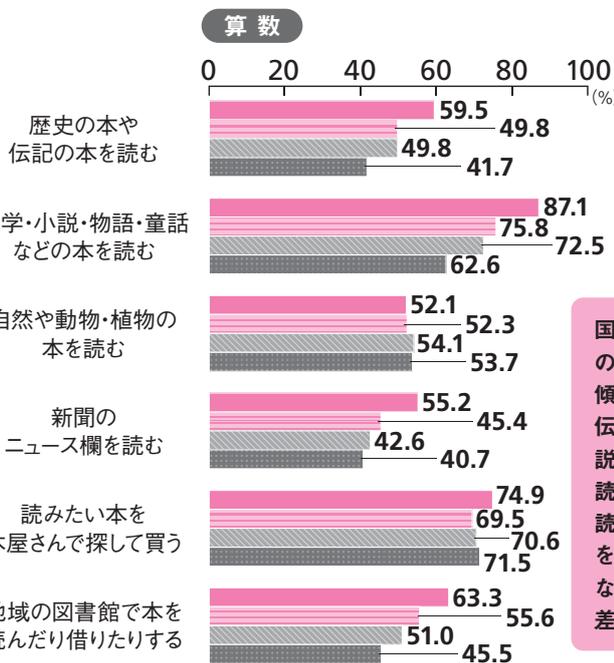
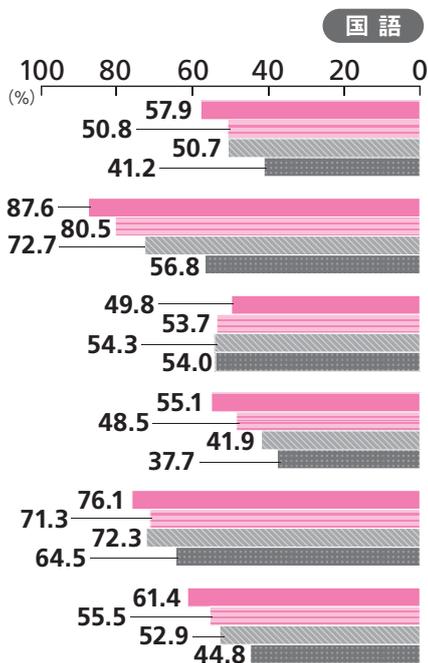
注1) 数値は「よくある」と「ときどきある」の合計

出典: Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」(2010)

調査時期は、2004年調査は2004年11月~12月、2009年調査は2009年8月~10月、調査対象は2004年調査は4年生1,494人、5年生1,399人、6年生1,347人、2009年調査は4年生1,153人、5年生1,201人、6年生1,207人、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査

学力上位の子どもは本をよく読んでいる

日常生活の中での「学習」(学力階層別)(回答:小学5年生)



国語と算数の学力が上位の子どもは、本をよく読む傾向にある。「歴史の本や伝記の本を読む」「文学・小説・物語・童話などの本を読む」「新聞のニュース欄を読む」「地域の図書館で本を読んだり借りたりする」などに、学力上位と下位の差が見られる

注1) 全9項目から読書活動に関係する6項目を抜粋

注2) 数値は「よくする」と「時々する」の合計

注3) サンプル数は国語2,432人(上位490人、中の上位728人、中の下位777人、下位437人)、算数2,422人(上位518人、中の上位744人、中の下位745人、下位415人)

出典: Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査・学力実態調査」(2008)

調査時期は、2006年11月、調査対象は全国3地域(大都市(東京23区内)、地方都市(四国の県庁所在地)、郡部(東北地方))の「学習に関する意識・実態調査」(2006年6~7月実施)の対象者であった小学5年生2,446人に、国語、算数(各45分)の学力調査(各教科3大問構成)を実施



上記の関連データはコチラ!

<http://benesse.jp/berd/>

*「調査・研究データ」コーナーをご覧ください